

児童養護施設退所児童支援のための実態調査

Survey on actual conditions for supporting children

who have left the children welfare institutions

桑原 義登 桑原 徹也

Kuwahara Yoshito Kuwahara Tetsuya

要 約

和歌山県内児童相談所の虐待通告件数は統計を取り始めた平成2年度18件であったのが平成28年度には1,101件と激増してきている。これは子どもに対する人権意識の高まりでもあるが、児童に対する虐待や不適切な養育が増加していることも明らかである。激増している被虐待児童の背景や原因についての研究や家庭や地域での子育て支援の充実により、虐待防止への対策を講じていく必要がある。

毎年、虐待通告件数の1割近くが家庭を離れて社会的養護（児童養護施設などの施設入所措置と里親委託）により養育支援を受けており、平成23年度の児童養護施設等での被虐待児童の入所割合は78.5%（桑原 2015）である。被虐待児童が暮らす児童養護施設の養育支援を向上するためには入所に至るまでのアセスメントが必要であるとともに退所後の社会的適応の実態を確認する必要がある。

被虐待児童の児童養護施設等での処遇改善に関する調査研究（科学研究費助成事業 2012～2014 研究代表者桑原義登）で行った児童養護施設退所児童支援のための実態調査結果を分析することにより、児童養護施設等での処遇改善についての提案を行っている。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

施設退所後の生活実態を把握することにより、施設での処遇改善策や退所児童の支援策を検討する。

(2) 調査対象と回収率

平成20年度～24年度の5年間の間に和歌山県内児童養護施設を退所した義務教育終了後以上の児童154人を対象としたが、発送できた児童は74名（48.4%）であった。回収できた児童は42人（発送した児童に対する回収率56.7%、対象児童全員に対する回収率27.5%）であった。調査票の発送ができない児童が多い

大阪市等の同調査回収率が25%前後であるのに比して高い方であるが、退所児童の半数以上に発送ができていない。「住所がわからない」、「施設との関係悪化の懸念」などの理由であるが、発送できなかった児童の方が支援を必要としていると思われる。施設として退所児童に対する定

期的な動向把握をお願いしたい。また、施設だけでは限界があるために児童相談所、市町村及び地域の関係機関が一体となったフォロー体制で児童や保護者との関係改善の努力が必要と考える。

また、回収できた児童の54.8%が10年以上の施設入所期間があった。しかも、16.7%が乳児院から継続して施設で生活していた。したがって半数以上が施設だけの生活経験で社会に巣立っている児童が多く、この調査結果は施設での生活体験が反映された内容でもある。

(3) 調査時期と調査方法

調査の依頼文と調査票及び返信用切手を貼った封筒を各施設から調査対象児童あてに発送して、各施設に返送してもらった。提出期限を平成25年10月31日とした。

(4) 調査内容

平成23年に大阪市が行った「施設退所児童支援のための実態調査」を基に和歌山県児童養護施設協議会処遇部会で協議して調査票を作成した。「回答者の属性」、「現在の生

活状況」、「進学状況」、「仕事の状況」、「退所した施設との関係」などの大項目に 26 項目の質問を設定して自由記述欄も設けた。

(5) 留意事項

匿名の調査票のみを研究者で回収して統計処理を行い、個人情報に配慮した。

同時に、退所児童と施設とのつながりを図るために施設への連絡用紙を入れておき、各施設に返送できるようにした。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

①回答者： 回答者は、「本人」が 90.5%、「本人以外」が 7.1%となっている。

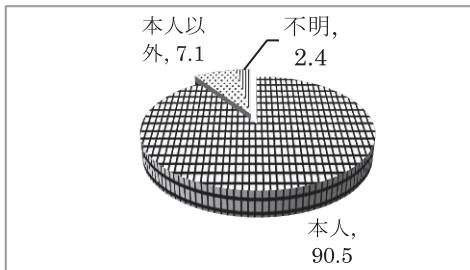


図 1. 回答者 [N=42]

②性別： 回答者は、「男性」が 54.8%、「女性」が 45.2%となっている。

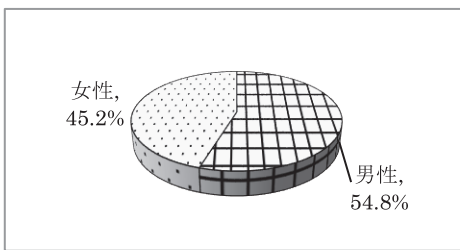
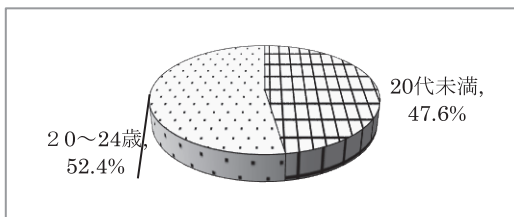


図 2. 回答者性別 [N=42]

③回答者の年齢：回答者の年齢は「20 歳未満」が 47.6%、「20～24 歳」が 52.4%となっている。



図表 3 回答者の年齢 [N=42]

④回答者が退所してからの期間

回答者が退所してからの期間は「1 年～2 年未満」が 31.0%

と最も多く、次いで「5 年以上」が 26.2%、「3 年～5 年」が 19.0%となっている。(過去 5 年間の退所児童を対象としているために退所してからの期間は比較的短くなっている。)

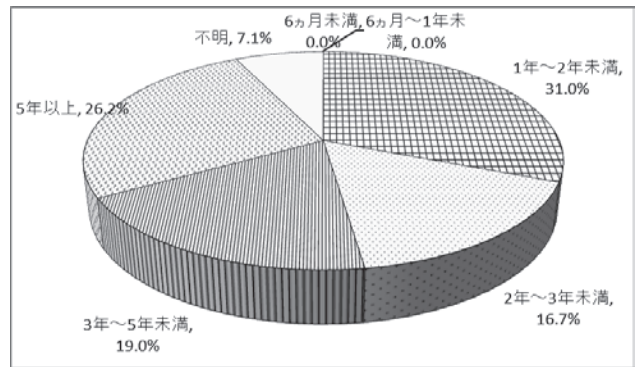


図 4 回答者の退所してからの期間 [N=42]

⑤入所していた施設

入所していた施設は、全員が「児童養護施設」を経験している。それ以外では「乳児院」を経て児童養護施設等に入所した児童が 16.7%あり、「情緒障害児短期治療施設」が 7.1%となっている。

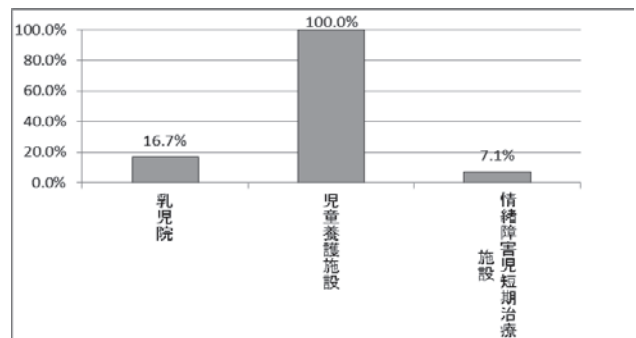


図 5. 入所施設 [N=42] (複数回答)

⑥入所期間

入所期間は「10 年以上」が 54.8%と最も多く、次いで「3 年～5 年未満」、「5 年～10 年未満」がそれぞれ 16.7%となっており、比較的入所期間が長い人が多くなっている。

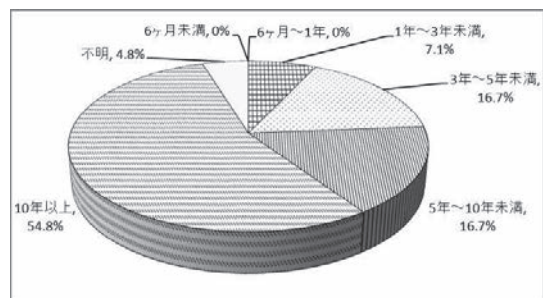


図 6 入所期間 [N=42]

(2) 現在の生活について

①現在の住まい

現在の住まいは「会社や学校の寮（住み込み・寄宿舎を含む）」が31.0%と最も多く、次いで「親や兄弟の家」が23.8%、「民間賃貸住宅（アパート・マンション等）」が21.4%となっている。

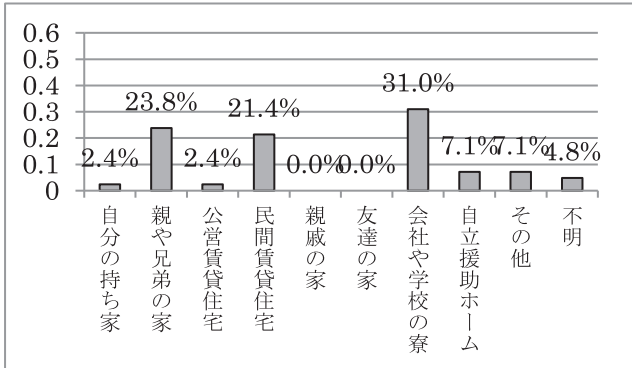


図7 現在の住まい [N=42]

②退所後の転居の有無

退所後の転居の有無は「転居した」が33.3%、「施設を退所してからずっと現在の住まいである」が66.7%となっている。

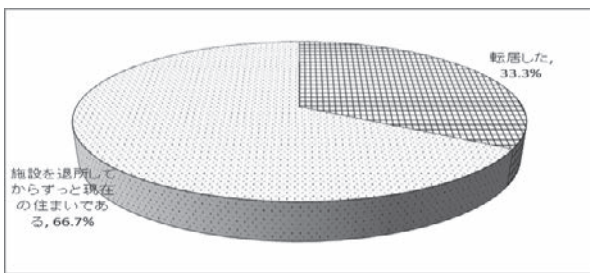


図8 退所後の転居の有無 [N=42]

③転居の回数

転居したことがある人にその回数を聞いたところ、「2カ所目」が50.0%と最も多く、次いで「3カ所目」が21.4%、「1カ所目」「4カ所目」が14.3%となっている。

退所してからおおむね5年以内の対象者の調査から考えると転居回数は多い。

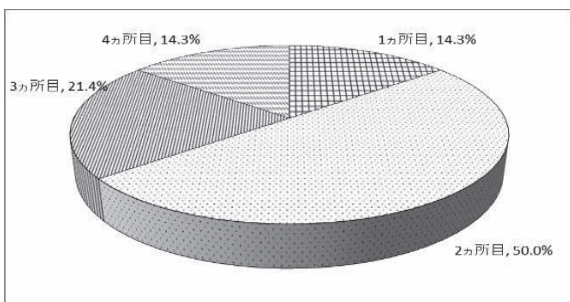


図9 転居の回数 [N=14]

④現在の世帯の状況

現在の世帯の状況をきいたところ、「一人暮らし」が

40.5%と最も多く、次いで「ご自身と親の世帯」が35.7%となっている。

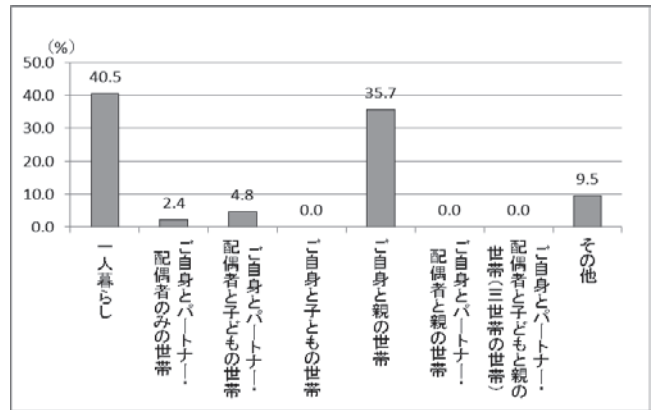


図10 現在の世帯の状況 [N=42]

⑤医療機関等の状況

医療機関等の利用状況をきいたところ。「利用している」が33.3%、「利用していない」が57.1%となっている。

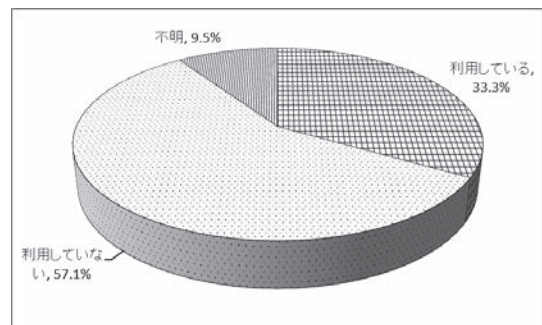


図11 医療機関等の利用状況 [N=42]

⑥主な収入源

主な収入源をきいたところ、「就労による自分の収入」が71.4%と最も高く、次いで「同居している親などの家族の収入」が16.7%、「障害年金」が7.1%となっている。

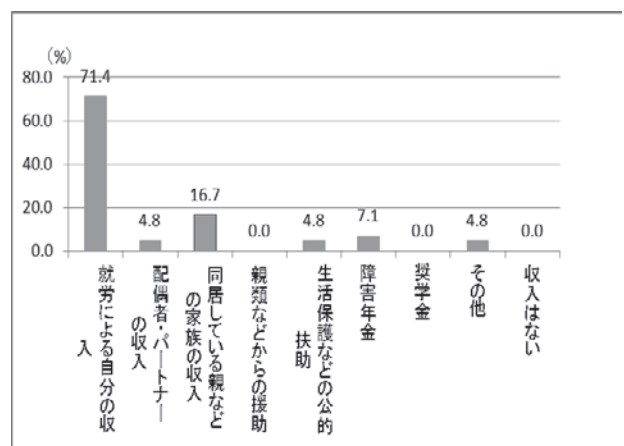


図12 主な収入源 [N=42] (複数回答)

⑦手取りの収入

就労による収入のある人に手取りの月収をきいたところ

「10～15万円」が46.7%と最も多く、次いで「15～20万円」が26.7%、「5万円未満」が16.7%となっており、所得の低い層が多くなっている。

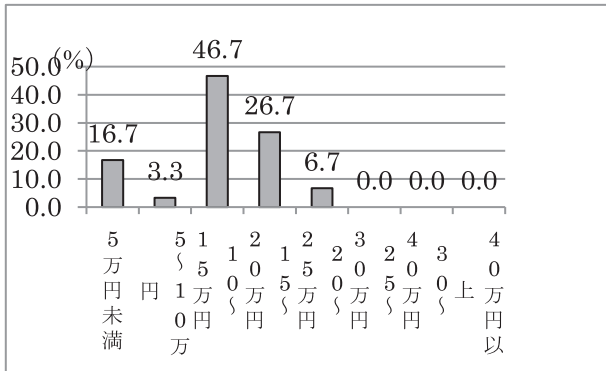


図13 手取りの収入 [N=30]

⑧加入している公的年金

加入している公的年金をきいたところ「厚生年金」と「分からない」が26.2%と最も多く、次いで「国民年金」と「加入していない」がそれぞれ19.0%となっている。加入していることが分かっている人の割合は45.2%であり、半分に満たない。

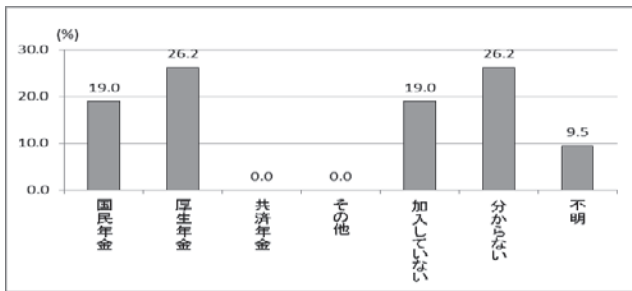


図14 加入している公的年金 [N=42]

⑨加入している医療保険

加入している医療保険をきいたところ、「企業の健康保険38.1%」等の医療保健に加入している者が64.3%であり、「加入していない」「分からない」「不明」が37.5%もいる。

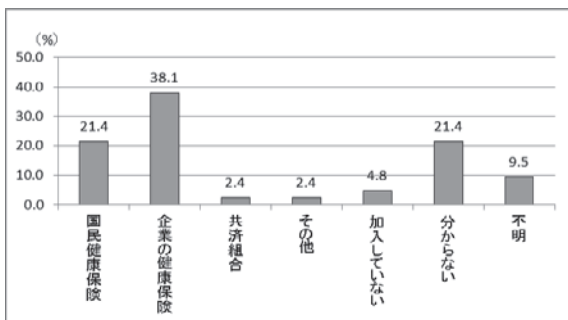


図15 加入している医療保険 [N=42]

(3) 日常生活における困りごとなど

①退所後困ったこと、現在困っていること

退所後困ったことをあげている人が66.7%、現在困っていることをあげている人は57.1%あり、少し減少しているながらも半数以上の人困りごとをあげている。退所後、現在ともに「親との関係」が最も多く、次いで「仕事に関すること」「学校や職場での人間関係」「孤独感を感じること」があげられている。

退所直後の相談が手厚く受けられる支援策が必要性和考える。

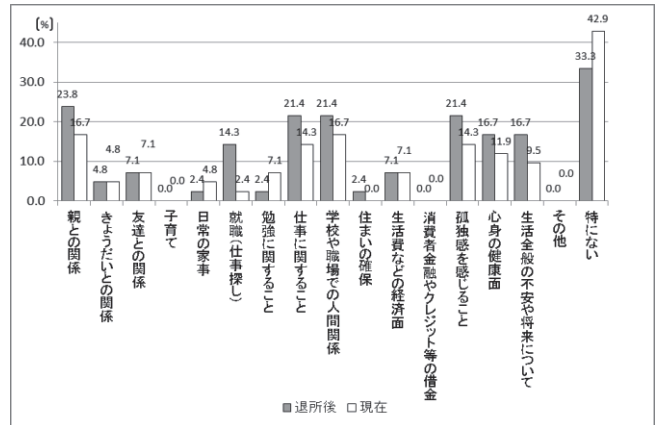


図16 退所後困ったこと、現在困っていること [N=42]

(複数回答)

②気持ちが安らげる場所・物事の有無

気持ちが安らげる場所・物事があるかどうかをきいたところ、「ある」が52.4%、「ない」が16.7%、「わからない」が9.5%となっている。

なお、場所や物事について具体的に記述してもらったところ、「自分の部屋」「友達と遊ぶ」「兄弟と過ごす」が多い回答となっている。

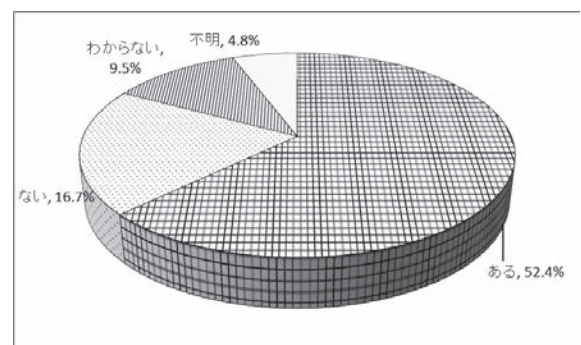


図17 気持ちが安らげる場所・物事の有無 [N=42]

③相談相手

相談相手をきいたところ、「学校の友達や職場の同僚」が54.8%と最も高く、次いで「学校の先生や上司」が26.2%、「退所した施設の職員(現在施設にいない人を含む)」が

21.4%となっている。

一方「相談できる人がいない」人も7.1%いる。

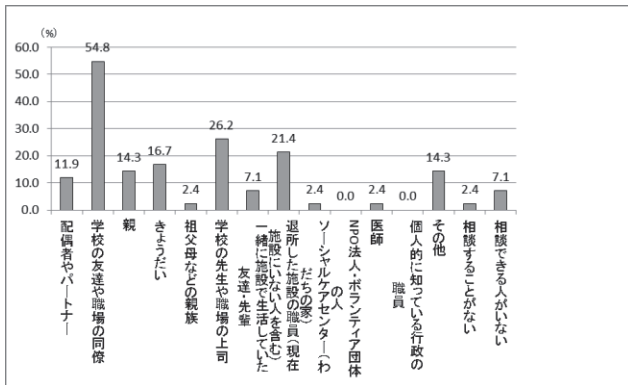


図18 相談相手 [N=42] (複数回答)

(4) 進学状況について

① 高校への進学状況

高校への進学状況について聞いたところ、6割近くが「高校に進学し、卒業した」と回答している。

一方、「高校に進学したが、中退した」人は16.7%となっており、中退した理由としては、「勉強する目的が見いだせなくなった」、「退学になった」、「学校に行きたくなかった」をあげている。

高校への進学率の低さとともに中退する割合も多く、進学支援策の検討が必要と考える。

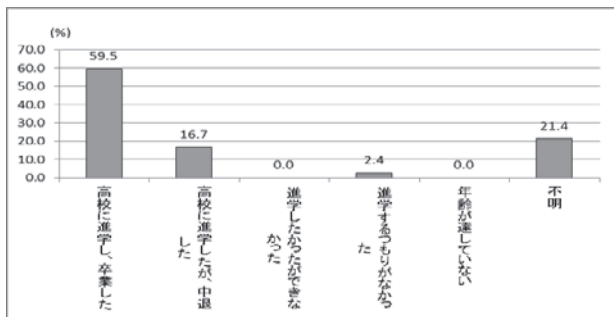


図19 高校への進学状況 [N=42]

② 大学・専門学校等への進学の状況

専門学校、短大、大学などへの進路状況について聞いたところ、「専門学校、短大、大学などに進学し、卒業した(在学中)」は16.7%となっている。一方、「専門学校、短大、大学などに進学したが、中退した」人は0.0%。「進学したかったができなかった」人は11.9%となっている。とくに、その中でも進学できなかった理由として経済的な厳しさをあげた人は83.3%となっている。その他には勉強する目的が見いだせなかった」などがあげられている。

早期からの進学意欲を高める対策とともに経済面の支援

策が必要と考える。

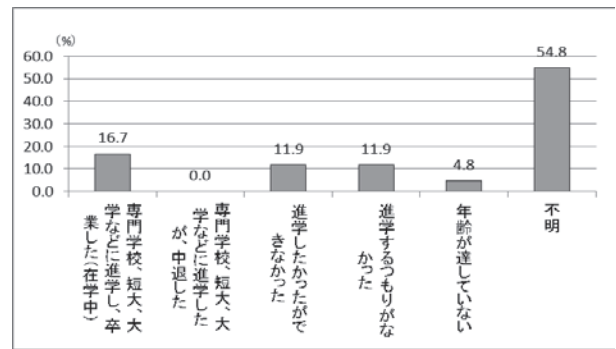


図20 専門学校、短大、大学などへの進学状況 [N=42]

(5) 仕事の状況について

① 仕事の経験の有無

仕事の経験の有無についてきいたところ、「仕事をしたことがある」が78.6%、「仕事をしたことがない」が19.0%となっている。

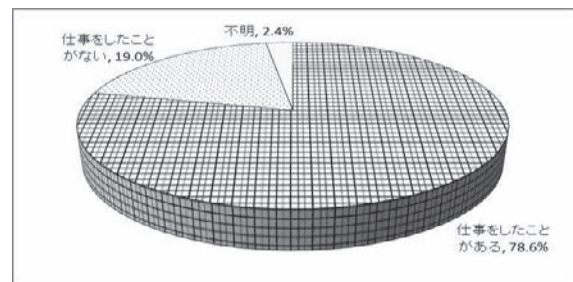


図21 仕事の経験の有無 [N=42]

② 転職経験の有無、転職の回数・時期

仕事をしたことがある人に転職経験の有無をきいたところ、「転職したことがある」が18.2%、「転職したことがない」が63.6%、「離職しており、現在は仕事をしていない」が6.1%となっている。また、転職したことがある人にその回数についてきいたところ、「3カ所目」が9.1%と最も高く、次いで「2カ所目」が6.1%となっている。

転職・離職が非常に多い状況にある。

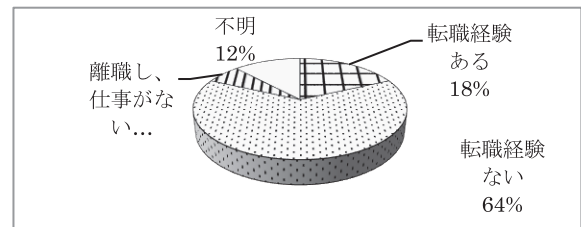


図22 転職経験の有無 [N=33]

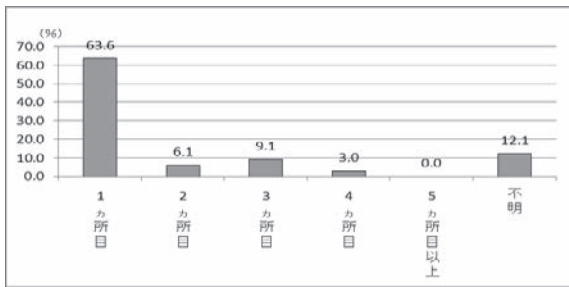


図23 転職回数 [N=33]

③転職・離職の時期やその理由

転職・離職した時期については「6ヵ月未満」「1年～2年未満」がそれぞれ33.3%と最も多く、次いで「6ヵ月～1年未満」「3年～5年未満」が16.7%となっている。また、その理由についてきいたところ、「人間関係がうまくいかなかった」が33.3%と最も多くあげられている。

就職直後の離職・転職が多いようであり、就職でのマッチングや退所直後のフォローが重要と考える。

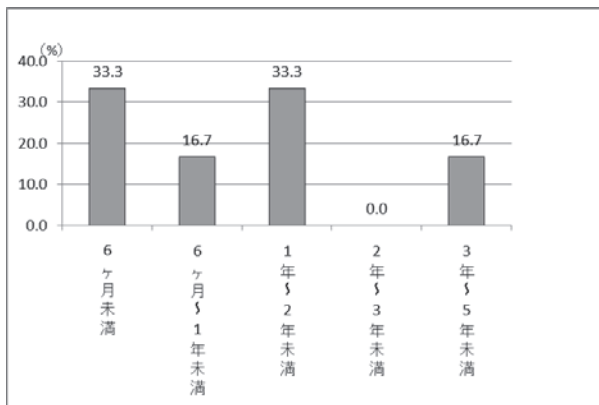


図24 転職・離職した時期 [N=6]

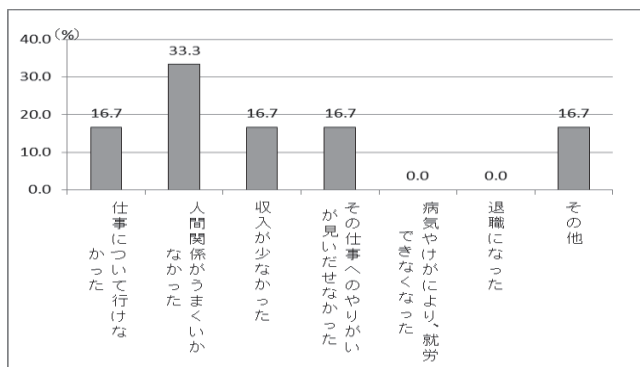


図25 転職・離職した理由 [N=6]

④現在の仕事の形態

現在の仕事の形態についてきいたところ「正規職員・従業員」が38.1%と最も高く、次いで「アルバイト」が21.4%となっている。正規職員の割合が非常に低い状況がうかがえる。

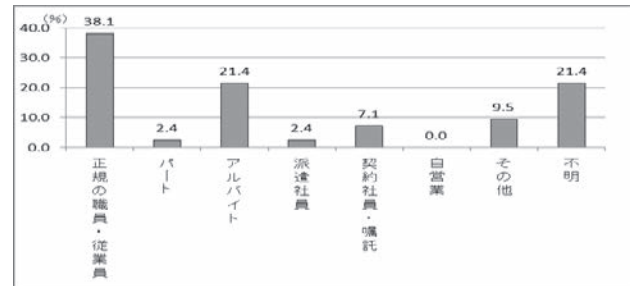


図26 現在の仕事の形態 [N=42]

(6)施設での状況について

①施設での生活で嫌だったこと

施設での生活で嫌だったことについてきいたところ、「門限などの規則・ルールが厳しかった」が45.2%と最も多く、次いで「自由に外出できなかった」が31.0%となっている。

一方、「特にない」人も26.2%いる。

別の質問で規則正しい生活習慣を学べたことが良かったとの回答が多く、児童の気持ちにより添いながら規則やルールの必要性を根気強く伝えていく工夫が必要と考える。

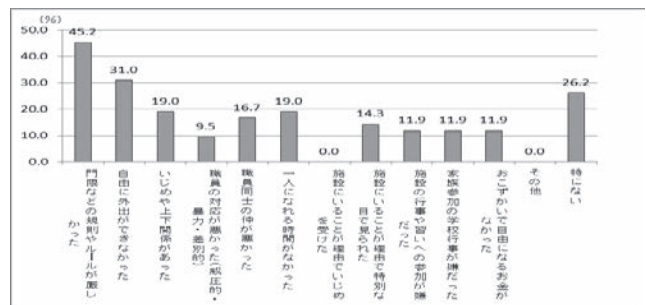


図27 施設での生活で嫌だったこと [N=42] (複数回答)

②退所施設からの連絡状況

退所施設からの連絡状況についてきいたところ「電話やメール、手紙などで連絡をとっている」が73.8%と最も多く、次いで「施設を訪問している」が42.9%となっている。

一方「特にない」と回答した人も11.9%いる。

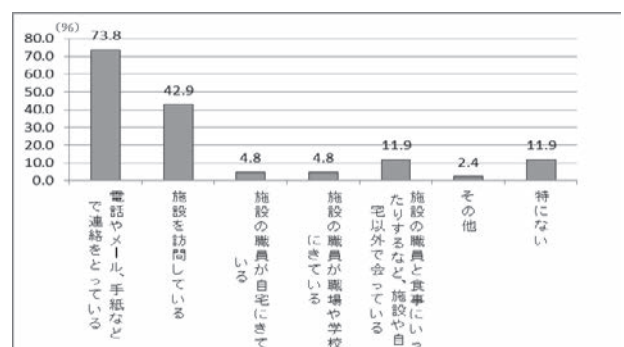


図28 退所施設からの連絡状況 [N=42] (複数回答)

③連絡している施設の主な職員

連絡している施設の主な職員についてきいたところ、「一番信頼している職員」が45.2%と最も多く、次いで「退所時担当の指導員、保育士」が42.9%となっている。一方「特にいない」と回答した人も19.0%いる。施設の職員との連絡は比較的多く取れているが、回答してくれなかった児童も多いことを考慮する必要がある。

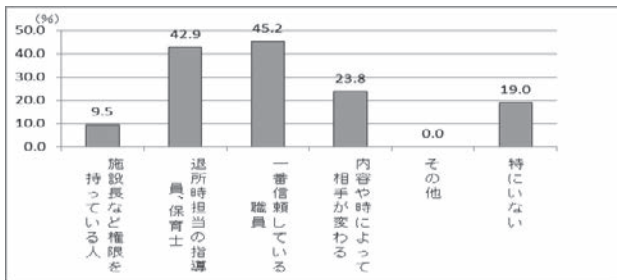


図29 連絡している施設の主な職員 [N=42] (複数回答)

④施設退所にあたり教わったこと

施設退所にあたり教わったことについてきいたところ、まず日常生活では「掃除や洗濯のやり方」が54.8%と最も多く、次いで「社会生活上の基本的マナー・ルール」が47.6%、「健康管理、病院の利用について」「人とのコミュニケーション、人間関係の作り方」がそれぞれ35.7%となっている。一方「特にない」と回答した人も14.3%いる。

次に進学について教わったこととして「進学に必要な学力を身につけるための手助け」「進学を希望する上での手助け」がそれぞれ23.8%と最も多くなっている一方、「特にない」と回答した人も35.7%いる。

仕事に関することでは、「仕事に必要な知識・技術などを身につけるための手助け」「履歴書の書き方や面接の受け方などの指導」がそれぞれ26.2%と最も多くなっている。なお、31.0%の人が「特にない」と回答している。

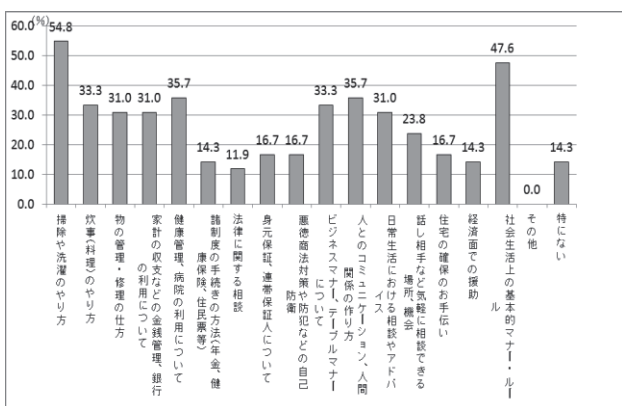


図30 施設で教わったこと<日常生活> [N=42] (複数回答)

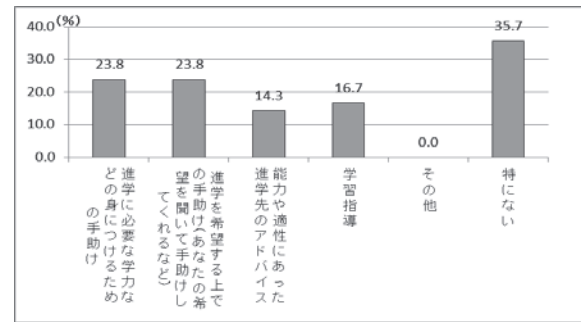


図31 施設で教わったこと<進学> [N=42] (複数回答)

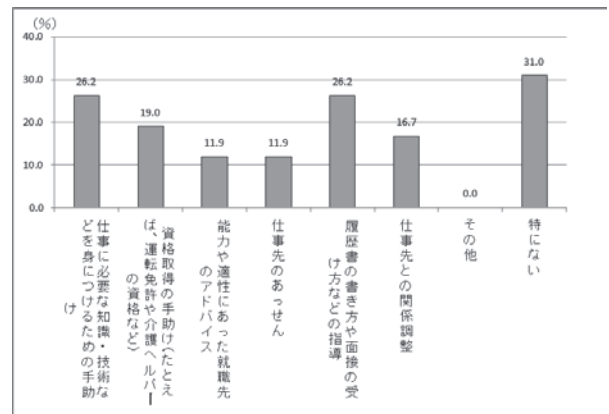


図32 施設で教わったこと<仕事> [N=42] (複数回答)

⑤施設退所前に必要なこと

施設退所前に必要だと思うことについてきいたところ、日常生活では「金銭管理について」が59.5%と最も高く、次いで「健康管理、病院の利用について」「人とのコミュニケーション・人間関係の作り方」「社会生活上の基本的マナー・ルール」がそれぞれ50.0%となっている。一方、「特にない」と回答した人は11.9%いる。

進学に関することでは必要だと思うことについては、「進学を希望する上での手助け(あなたの希望を聞いて手助けしてくれるなど)」との回答が35.7%と最も多く、次いで「能力や適性にあった進学先のアドバイス」が21.4%となっている一方、「特にない」との回答は31.0%となっている。

また仕事に関することについては「履歴書の書き方や面接の受け方などの指導」が35.7%と最も高く、次いで「資格取得の手助け」が33.3%、「能力や適性に合った就職先のアドバイス」が31.0%となっている。など、21.4%の人が「特にない」と回答している。

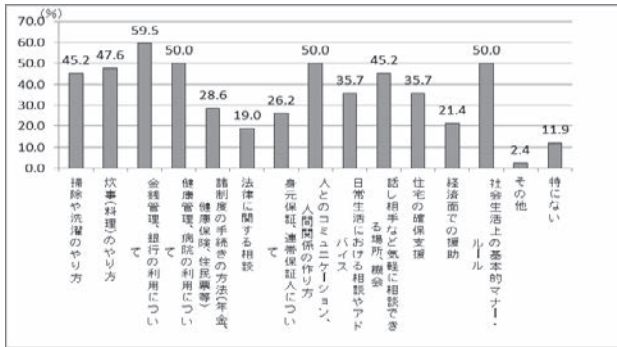


図 33 施設退所前に必要なこと<日常生活> [N=42] (複数回答)

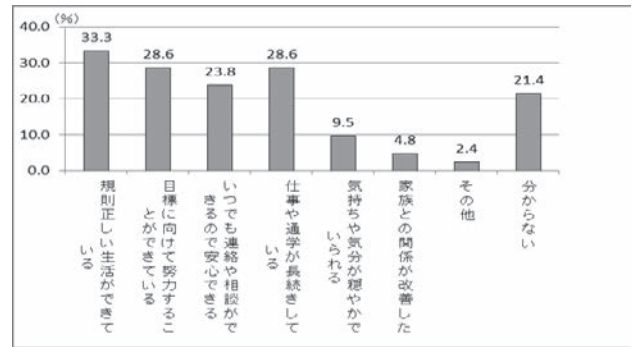


図 36 施設で教わってよかったこと [N=42] (複数回答)

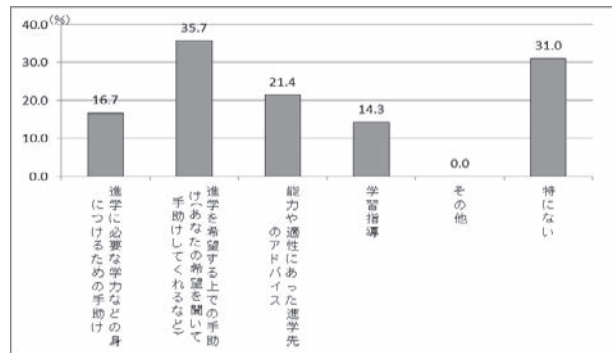


図 34 施設退所前に必要なこと<進学> [N=42] (複数回答)

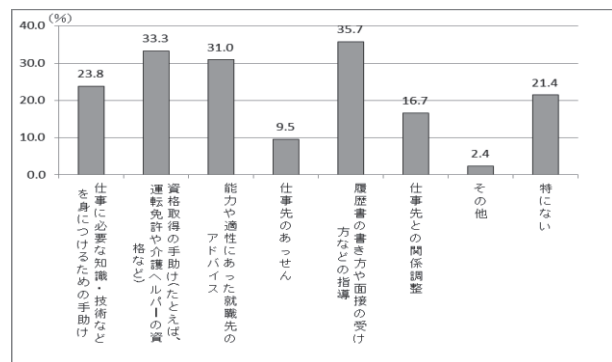


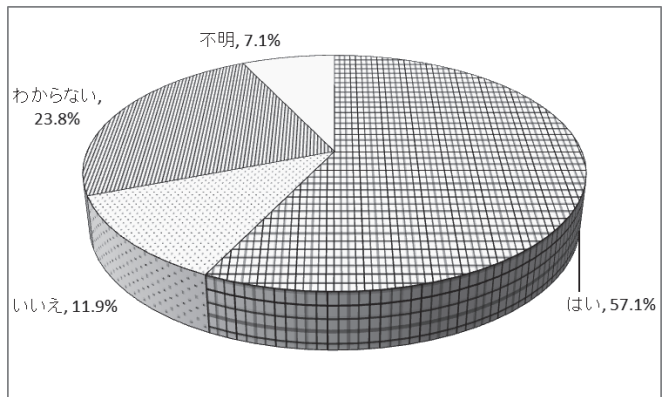
図 35 施設退所前に必要なこと<仕事> [N=42] (複数回答)

⑥施設で教わってよかったこと

施設で教わってよかったことについてきいたところ、「規則正しい生活ができている」が 33.3%と最も高く、次いで「仕事や通学が長続きしている」「目標に向けて努力することができている」が 28.6%となっている。一方、「分からない」と回答した人も 21.4%いる。

⑦行事への参加

施設からの行事などの案内があった場合参加したいかどうかきいたところ、「はい」と回答したのは 57.1%と最も多く、「いいえ」と回答したのは 23.8%、「わからない」と回答したのが 23.8%となっている。



図表 37 行事などの案内への参加 [N=42]

(7) 自由意見

「施設での生活や、施設を退所してからの生活を通して感じていることなどについて、あなたのお考えを自由に書いてください。」に対する自由記述である。

退所した児童の施設へのメッセージとしてそのまま受けとめていく内容であると思う。

感謝	<ul style="list-style-type: none"> 資格勉強等、一番苦労しましたが、施設での教えが身につけていたことを実感した。 いい友達、安心できる友達に巡り合えた場所だった。 高校野球をできたことによって自分が変わった。施設を退所してから、食堂のご飯のおいしさが分かった。
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除・洗濯・炊事のやり方を教えてもらったから一人暮らしを始めた時にすぐ役に立った。バイトをさせてもらったおかげで人とのコミュニケーションをとれるようになった。 ・頑張ること、我慢も時には必要なこと、人間関係など色々と学べてよかった。 ・施設には感謝しているし、良い経験だった。 ・他の家庭よりも色々なことを学べた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまに施設に戻りたくなる時がある。施設にいた時よりも出た後の職員との関係がよい感じやと思う。 ・自分の考え方があっているのかわからなくなる。 ・無駄にルールで拘束されていたとはいえ、守られていた部分もあるので、一人で生活は大変。 ・何か物足りなさができてきた。月1回程の帰省は自分にとっては1つの心のケアだと思う。「帰れる場所がある」ということは、そのために1つのことを頑張ろうと思える。望んでは入ることのない施設ですが、入所してよかったと思う。 ・一人暮らしをするようになった時は「今日から自由」と思って喜んだが、日が経つにつれ家事をするのが面倒臭くなった。施設にいたことは「何でもしてくれる」と甘さが出てきたり、正直辛かった。
<p>不満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設でも家でもあんまり楽しいと思っただことがなかった。どっちに居てもずっと一人で相談する相手もおらんかったから。今も誰にも相談できない。誰に頼たらいいのかわからん。家族関係も施設に入ってる時から、現在もあまりいいとはいえない。そもそも家族と思っただことがない。 ・他の施設のことは知らないが、もっと甘えたかった。 ・施設では自分が問題を起さなくても連帯責任でいちいちルールを増やされて迷惑だったので個別にした方がいいと思う。 ・お金の管理が厳しすぎませんか？無駄遣いする人以外は本人にまかせてもいいのでは？ ・中学や高校は友達関係など門限をせめて補導時間の(10時くらい)がいいと思う。 	<p>施設の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直、普通の家庭がうらやましかった時がいっぱいあった。先生とけんかをしたこともあったが、一つ一つ自分のために怒ってくれたんだと思う。学園にいる時は周りに甘えてわがままばかり言っていたが今は一人暮らしになって甘えられないので、ありがたかったと思う。 ・施設での生活はつらいことの連続だった。親がいないことの寂しさ、普通の子とは違うという現実、施設内での人間関係。普通の子よりできることが少なくて、「なぜ？」と考えることが多かった。でも普通の子たちが得られないこともたくさん経験できた。血のつながっていない施設の子たちは本当の兄弟のようだった。複雑な人間関係を小さい時から見てきたため、社会人になってから人との付き合いは得意だし、何か落ち込むことがあってもあの時の何もできなかった自分のつらさと比べて、今の自分が行動を起
<p>退所後の生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退所して6ヵ月だが何とか頑張っている。 ・やっぱり集団行動、集団生活だったため、ものすごく淋しい気持ちで孤独感におそわれます。退所して半年経ちましたが、毎日のように「帰りたい」と思い泣いています。このことはこれから先、退所する子ども達に何か良い改善方法はないのだろうかと思います。 	

	こせばつらい状況からも変えられることを知った。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し児童に寄り添ってあげれば、僕のような孤独な思いをしないとと思うのでお願いします。 ・自立した時のために色々経験させてあげてほしいと思う。 ・決まり事はきちんと守らせるべきだと思う。そうしないと自立したときに苦労すると思う。 ・常識は教えておいた方がいいと思う。自分も困った時があったので

3. まとめと考察

(1) 退所児童の把握の必要性

本調査にあたって平成20年度から平成24年度の5年間における義務教育終了後の退所児童の調査を行ったところ対象者は153名であったが、住所が不明であることや施設側と児童・保護者等との関係で発送できないケースが多く51.4%もの児童に調査票を発送できなかった課題は大きい。

日常的に退所児童に関する定期的な動向把握や児童相談所とともに児童や保護者との関係性を改善しておく必要がある。

連絡が取れなかった児童に課題が大きく、より支援を必要としている可能性は高いと考える。

(2) 回収率について

発送した人数に対する回収率は56.7%であり他府県の調査に比べて高率であるが、対象者に対する回収率は27.5%であり退所児童の実態把握としては十分なものではない。

今後、対象児童の把握とともに回収率を上げて実態把握ができるようにしていく努力が必要と考える。

(3) 回答児童の特性

回答してくれた児童は半数以上が10年以上施設に入所している。内、16.7%が乳児院から継続して入所している。したがって半数以上が施設だけの生活経験で社会に巣立っている子ども達が多く、この調査結果は施設での生活体験が反映された内容であると考えることができよう。

(4) 現在の生活について

① 職場の寮などへの住み込みの人が多く関係からか、5年間の間に転居が3分の1と多い。(離職・転職が多い)

② 収入は10～15万円が46.7%と中心値である。10万円未満の人も20%程度いるなど、極端に低所得の人も多く経済的に自立できていない状況がうかがえる。

③ 約3分の1の人が医療機関を利用しているが、医療保健に加入している人は64.3%である。従って約3分の1は医療保健に加入していない可能性が高い。

同じように公的年金に加入している人45.1%で、残りの半数以上の人は何らかの公的年金に加入していない可能性が高い。経済的にも苦しい事情がうかがえるが、公的年金や医療保健への加入の指導や経済的支援が必要な人が多いと思われる。

(5) 日常生活における困りごとなど

① 困りごとがない人は退所後で33.3%、現在で42.9%であることから、残りの半数以上の人は何らかの困りごとを抱えていると思われる。退所後すぐの状況での困りごとがあると思われる人が3分の2もいることになり、退所後は早期からの相談対応の充実が特に必要であると考える。

② 困りごとの内容については、長く施設にいたために親との関係が希薄であったことからか「親との関係」が23.8%と最も多く、「仕事に関すること」、「学校や職場の人間関係」及び「孤独感を感じる」がそれぞれ21.4%と多い。続いて、「心身の健康」、「生活全般の不安や将来のこと」、「就職(仕事探し)」が10数%となっている。

経済的な課題とともに対人関係での対応の仕方に関するソーシャルスキルを学んでおく必要性を感じる。

③ 気持ちが安らげる居場所がある人が52.4%で、ない人が16.7%、わからない人が9.5%となっている。

また、相談相手は学校の友達や同僚が54.8%と最も多く、施設の職員は21.4%であった。相談できる人がないと答えた人は7.1%であった。

頑張る力を発揮するためには「安心できる居場所」と「信頼できる人間関係を築いておくこと」が重要であり、心理面で支援ができる体制づくりが必要と考える。

今回、回答がなかった人に対してはもっとこのような心理的支援が必要になっていると思われる。

(6) 進学状況について

① 「高校に進学して卒業した人」は59.5%で、「進学したが中退した人」が16.7%であった。高校への進学率の低さとともに中退する人の割合も高い状況にある。退所後の就労や所得の低さに繋がる背景でもあり、高校進学率の低さや中退が多い問題は大きな課題として考える必要がある。

背景に勉学意欲の低さがうかがえるので幼少時からの勉学の習慣づけや施設児童を対象とした制度的な学習支援体制の検討が望まれる。

② また、大学・専門学校への進学をした人は16.7%であり、中退者はいない。進学しなかったができなかった人は11.9%であり、理由として経済的な厳しさをあげている人がほとんどであった。

意欲のある人に大学等への支援体制を強化することにより、在園児の励みとなる良いモデルづくりを進めていてもらいたい。

③ 将来の目標や希望をもたせておくことが、勉学や進学意欲につながると思うので

良いモデルとなる先輩からの話を聞く機会も取り入れていく必要がある。

(7) 仕事の状況について

① 長い人で退所後5年間ほどの間であるのに転職したことがある人が18%で、転職回数も複数回の人も多い。また、離職して仕事をしていない人も6.1%いる。ほとんどの人が2年未満で離職・転職しており、3分の1が6ヶ月未満で転職・離職している。その理由として3分の1の人が「人間関係がうまくいかなかった」ことをあげており、「仕事について行けなかった」、「収入が少なかった」、「その仕事へのやりがいを感じなかった」などをあげている。

仕事に就いた後のフォローも必要であるが、事前の就労体験の必要性や適正を確認したマッチングの検討が必要と考える。

③ 現在の仕事の形態は「正規職員」が38.1%にとどまるなど不安定な就労状況がうかがえる。労働白書での同年齢の正規職員割合65%と比較すると施設を退所した子ども達の正規職員の割合はきわめて低い。

(8) 施設での状況について

① 施設の生活で嫌だったことで、「門限などの規則やルールが厳しかった」が45.25%、「自由に外出ができなかった」31.0%、「いじめや上下関係があった」19.0%、「一人になれる時間がなかった」19.0%と続いている。

反面、別の質問で「基本的な生活ルールやマナー」を施設で身につけたことがよかったと言っている人が多い。頭ごなしにルールやしつけを押しつけるのではなく、子どもの気持ちにより添いながらじっくりとその必要性を一緒に考えていくような指導が望まれる。

② 今回調査の回答があった人は施設との連絡が取れている人であることがうかがえるが、回答がなかった人との連絡に力を入れる必要があると考える。

③ 施設退所にあたり教わったこととして

日常生活では掃除や洗濯の仕方をはじめ多くの生活習慣を教わったことをあげている。

進学については「特にない」35.7%と多く、勉学意欲との兼ね合いがありそうである。

仕事についても「特にない」31.0%と多いが、仕事に必要な知識、履歴書の書き方などや資格援助を教えてもらったことをあげている人も20%程度いる。

進学や就職への希望やモチベーションを高めていくことが必要であると思われる内容であった。

④ 施設退所前に必要な事として

日常生活では半数以上の人があげているものとして「金銭管理、銀行の利用について」が最も多く、「健康管理」、「人とのコミュニケーション、人間関係の作り方」、「社会生活上の基本的マナー・ルール」があり、「炊事のやり方」、「掃除や洗濯のやり方」とつづいている。

進学では「特にない」も多いが、進学を希望する上での手助けやアドバイスを求めている人も多い。

仕事についての履歴書の書き方や面接の受け方、資格取得の手助け就職先のアドバイスなどが必要なこととあげている。

⑤ 施設で教わって良かったこととして、「規則正しい生活ができている33.3%」、「目標に向けて努力することができている28.6%」、「仕事が長続きしている28.6%」等があげられている。

⑥ 施設からの行事への参加は案内があれば参加すると答えた人が57.1%、わからない23.8%、いいえが1

1. 9%であった。半数以上の人が施設の行事への参加を希望していることになる。

(9) 自由意見から

自由意見の中でも非常に参考になる内容もあり、施設を退所してから感じたことを退所した人の体験として、現在入所している子ども達に直接話をする機会を設けても良いと考える。

(10) 全体を通しての所見と提案

退所した子ども達の社会での適応状況にかなり厳しい状況がうかがえる調査結果であったと思う。加えて調査票が送れなかった退所児童の半数以上の子ども達の状況はもっと劣悪である可能性も高い。

今後とも退所児童の実態把握をしながら施設での処遇のあり方を検討していく必要があるが、処遇困難児童が増えている中で入所児童への対応で手がいっぱいの状況がうかがえる。(和歌山県の児童養護施設等における被虐待児童の入所割合は76.5%と高く、個別児童の調査では職員から見て何らかの手がかかる児童は3分の2に及んでいる。)

特に退所後すぐの支援の必要性を訴えてる児童が多かったため、退所児童の実態把握をしながら相談支援をしていく専門指導員の配置を提案したい

参考文献

1. 児童養護施設退所児童支援のための実態調査報告書
大阪市 2012
2. 桑原義登 2009 児童虐待と臨床心理的地域援助 相愛大学研究論集第25巻 19-38
3. 村瀬嘉代子 2004 統合的心理療法の考え方 金剛出版
88-109
4. 桑原徹也、田中存、中村道雄、江田裕介 2009 現在の児童養護施設における教育的な課題と旭学園の取り組み 和歌山大学教育学部教育実践センター紀要 第19号 1~8
5. 桑原徹也、江田祐介 2017 児童養護施設における思春期児童の行動上の問題とリスクアセスメントに関する考察 和歌山大学学芸学会 169-173